

# これから生きるために 歴史を学ぶ

教える人

## 佐藤 能丸 先生

講義内容

「昭和の歴史」  
「近代日本の思想と文化」  
「日本の現代」



教室はいつも熱気に満ちている



未来を見据えて、情熱的に歴史を語る佐藤先生

### 「歴

史学とは、過去から学んだことを未来に生かす学問だと考えています。そのためには特定のイデオロギーや考え方に偏ることなく、史料に基づいた史実をありのまま知ることが大切。私が授業で大量の史料を配るのは、受講生の皆さんにさまざまな角度から日本の歴史を見つめ直してほしいと思っ

ているからです」と佐藤先生は力強くよく通る声でそう語ります。  
編年ごとに時代を読み解く「昭和の歴史」はそんな佐藤先生の信念が色濃く反映された授業と言えます。重要な局面を迎える年は、通常なら3回の講義で進めるところを6回ほどに増やし、1回の講義で配付する史料がA4用紙で100枚を超えたこともあったほど。「政治、経済、外交、思想、芸術、芸能など、幅広い事象を扱うので必然的に授業の密度は濃くなりま

すね。基本的に授業ではポイントだけを解説して、史料の読破は各自にお任

せています。全てに目を通すのは決して楽ではないはずですが、多くの受講生が熱心に読んでくれています」

昭和という時代の特徴は、現代に近接している点だと佐藤先生は話します。「鎌倉時代や江戸時代とは絶対的に違います。受講生は60代から70代の方々が多く、昭和とはまさに自分たちが生きた時代。昭和を学ぶことは自らの人生を見つめ直し、理解することでもあるのです。私はよく授業で『自分史』を書いてください」と呼び掛けていますが、配付する史料はその一助

になればという思いも込めています」  
佐藤先生が歴史を通じて受講生たちに伝えたいのは「過去は不変だが、未来は可変性に満ちている」ということ。過去を懐古するのも良いけれど、過去の史実を学ぶことによって、自分たちがいかなる未来を選ぶか、そして世界をどう変えるかを考えよう。佐藤先生はそんなメッセージを発し続

### プロフィール

1943年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修了。文学博士。日本近代史専攻(思想史・大学文化史等)。昭和の歴史・日本の現代・近代日本の思想と文化を担当。著書として『異彩の学者山脈』『明治ナショナリズムの研究』『大学文化史』その他がある。趣味は散歩と赤提灯。

### 佐藤先生の 学びの提言

史実を知る



歴史とは「人」と「出来事・物」が、縦糸と横糸とで織られた布のようなもの。歴史を学ぶには、まず史料に基づく史実を知ることから始まると佐藤先生は考えています。授業では毎回多くの史料を配付しますが、その1回分の準備には平均3日はかかるそうです。

けています。「受講生は年配の方が多くですが、尼腰丈夫で好奇心さえ持っていれば人生にはまだまだ先がある。政治の主権者として未来を変える責務もあると私は考えています。だから授業も淡々とはなく、つい扇情的になっ

ていくかもしれませんね。一方で、私にとってもエクステンションセンターでの授業はとても刺激的です。何しろ実際に歴史を生きてきた方々と向かい合っ

て話ができるわけですから。お茶をしたり、軽く一杯飲むと興味深い話を語ってく

れる受講生の方々のためにも、今後はこれまで以上に面白いと感じていただけの授業をしていき



# 知 の

ひとつの「学び」から得た発見が、

知の世界を広げてくれる出発点となります。

# 知るほどに、学ぶほどに惹かれる 歴史の深み

ちのかいたく

## 開拓

どのように学びを広げていくか、教える人と学ぶ人、それぞれの学門分野について  
学びの出発点とこれまでをお聞きし、そのヒントを探してみました。



仲間との集い。ときには佐藤先生も参加



早稲田大学正門前で

学ぶ人

(2003年入会)

小杉 恵子さん

受講内容「昭和の歴史」

**日** 本の近現代史を中心に学んでいる小杉さんですが、それ以前はさほど歴史に関心があつたわけではありません。「服飾デザイナーだった義母の影響もあり、私は洋裁教室を開いていました。教えるだけでなく自分も学びたいとエクステンションセンターのパンフレットを目にしたとき、さまざま内容の授業があることを知ったのです。まずは服飾史の背景をうかがい知れるかもしれないと思い文学を、そして『信長公記を読む』などを受講。そこで歴史の面白さを知り、『江戸・東京の風物と文化』を受講しました。複数の先生が持ち回りで授業を行うオムニバスだったので

ですが、そのなかの一人が佐藤先生だったのです。軽快でアカデミックな先生のお話にも魅力を感じましたし、町歩きなどで日本の歴史に触れるうちに学ぶ楽しさに目覚めました」とご自身と歴史の出会いついて小杉さんは語ります。

そして、以前ならそれほど関心がなかつた歴史番組なども見るようになると、興味の対象は徐々に現在と近接する近代史へと広がってきます。「その中でも特に胸につか

えていたのは戦争の存在です。私は戦後生まれの世代なのでリアルタイムで戦争を知らず、正直に言えば、当時の状況や人々の思いを心の底から理解しようとしたこともありませんでした。ただ、過去とのつながりを考え始めるようになってから素通りすることはできないと感じたのです」

2007年、そんな思いを見透かしたかのように佐藤先生の「昭和の歴史」が開講します。「今は昭和を1年ずつじっくり学んでいるところ。毎回、配付される史料を多く読むのは大変ですが、参考になることが多い

いですね。この授業を通じてメディアというものの見方もずいぶん変わりました」と小杉さん。そして内容の充実した授業とともに、エクステンションセンターの魅力をも感じるのが一緒に学ぶ仲間との交流だといいます。「気の合った方々の飲み会などで、自分とは全く立場の異なる方々のお話を伺うことで考え方や視野が大きく広がったように感じています。最初はちょっと学びたいと通い始めたエクステンションセンターですが、今では私にとって欠かすことのできない刺激に満ちた場所になりました」

### 小杉さんの 学びの履歴書

#### ● 受講科目例 (一部)

2003 『徒然草』を読む  
『伊勢物語』を読む  
近代文藝の百年  
聖徳太子と仏教美術

2004～2007 『信長公記』を読む

2005～2006 江戸・東京の風物と文化

2007～2011 昭和の歴史 -政治・思想・社会・文化-

2010 聖地・熊野と伊勢  
-日本人の心の原郷を旅する

